

## 第11回「民都・大阪」フィランソロピー会議 議事概要

1 日 時 令和3年3月30日（火） 16時から17時15分まで

2 場 所 Web開催

### 3 出席者

#### 会議メンバー

池内 啓三	学校法人関西大学 相談役
大下 一志	大阪府・大阪市副首都推進局 総務・企画担当部長
大槻 文藏	公益財団法人大槻能楽堂 理事長
川平 眞善	大阪府・大阪市副首都推進局 理事兼総務・企画担当部長
久保井 一匡	公益財団法人小野奨学会 理事長
崎元 利樹	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 理事長
白井 智子	特定非営利活動法人新公益連盟 代表理事
施 治安	「大阪を変える100人会議」 顧問
出口 正之	国立民族学博物館 教授
早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長
藤田 清	公益財団法人藤田美術館 館長

#### 顧問

堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 顧問
-------	----------------------

#### 分科会リーダー

佐々木 利廣	京都産業大学経営学部 教授（人材分科会）
大杉 卓三	京都産業大学経営学部 准教授（資金分科会）
中野 秀男	大阪市立大学 名誉教授（情報分科会）
施 治安	「大阪を変える100人会議」 顧問（共創分科会）（再掲）
堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 顧問（文化・芸術分科会）（再掲）

#### 関係者

鱧谷 貴	公益財団法人大阪コミュニティ財団 専務理事
西光 沙頼	公益財団法人大槻能楽堂 統括部長

### 4 議題

- 議題1 「民都・大阪」フィランソロピー会議メンバーの選任について
- 議題2 中締め報告書について
- 議題3 「民都・大阪」フィランソロピー会議の今後の方向性について
- 議題4 その他

### 5 会議資料

- ・次第
- ・資料1 「民都・大阪」フィランソロピー会議メンバー名簿（案）
- ・資料2 「民都・大阪」フィランソロピー会議報告書（案）
- ・資料3 令和3年度「民都・大阪」フィランソロピー会議スケジュール

## 6 議事要旨

《冒頭、会議事務局より報告あり》

- ・会議メンバーのうち、池内氏が昨年9月末で学校法人関西大学理事長を退任し、10月より同大学相談役に就任、また、大阪府・大阪市副首都推進局の川平氏が1月より理事兼総務・企画担当部長となっている旨、報告。

### 議題1 「民都・大阪」フィランソロピー会議メンバーの選任について

- ・会議メンバーであった大阪府・大阪市副首都推進局総務・企画担当部長 小林 眞澄 氏の退任に伴い、会議規約第7条第2項の規定に基づき、同局総務・企画担当部長 大下 一志 氏がメンバーとして選任された。(資料1)

### 議題2 中締め報告書について

- (1) 会議事務局より、これまでの報告書作成の経過及び第10回会議以降に追記・修正した点を中心に説明を行い、議長より提言部分について、趣旨・目的について説明があった。軽微な修正等については議長一任のうえ、中締め報告書が完成した。(資料2)
- (2) 意見等の概要は以下のとおり。
  - ・公益庁構想に関する提案について、提案時期を追記したほうがよいのではないか。
  - ・その他軽微な字句修正についての指摘があった。

### 議題3 「民都・大阪」フィランソロピー会議の今後の方向性について

- (1) 「民都・大阪」フィランソロピー会議の今後の方向性について、会議事務局より、次のとおり説明があり、了承された。(資料3)
  - ・会議についてはオンラインを使用して数回実施していくこと、また、中締め報告書で確認された提言1及び提言2の実現に向けた活動を行う。
  - ・今年度のフィランソロピー大会については、一般に向けた分科会等の発表としての大会と提言の実現に沿った具体案を発信する大会の2回程度の開催を予定する。
  - ・大阪・関西万博を大阪の公益活動の機運醸成・発信の契機としていくための方策を検討する。
- (2) 意見等の概要は以下のとおり。
  - ・非営利法人が現状の中で様々な支障があることについて具体的な資料などが欲しい。
  - ・先駆的にオンラインを活用した会議運営を行っているので、ポストコロナの時代に即した形で、今後ともオンラインを活用していきたい。
  - ・万博協会との連携等については万博後を見据え、現在、「TEAM EXPO 2025」と共同でいろいろな公益団体や企業がSDGsへの取組みを進めているので、そういったビッグコミュニティを民都・大阪に迎えることができるような仕掛けづくりなどを会議事務局と一緒にできないか。
  - ・ノウハウを有している団体と連携し、単発の事業として終わらせず、レガシーとして、大阪万博がきちんと機能したということを残していくことについて、今後、会議メンバーと議論できたらと考えている。

#### 議題4 その他

- (1) 新型コロナウイルス感染症による影響も踏まえ、会議メンバー及び分科会リーダーより、現在の活動内容等について、現況報告や問題提起等が行われた。
- (2) 意見等の概要は以下のとおり。
  - ・ 学生が大学に来ることができない中、教育の根幹である対面、人と接することができないというところをどうしていくのか悩んだ。そのような状況ではあったが、感染症対策をしっかりと講じながら、他の大学よりも積極的に対面授業を行い、後期からは原則、対面授業を実施した。ただし、250人を超える授業は遠隔授業で実施するといった方式でやってきた。一方で、日本の教育界のみならず世界全体でもそうであったが、遠隔授業の良さも発見された。アンケート等をとっても、時間的制約がない、通学の時間を省略できるということで、学生の遠隔授業に対する評価も出ている。このような評価を今後どのようにミックス（反映）させるか、教育界にとっては大変大きな宿題である。
  - ・ 人材分科会と資金分科会については、第6回までは合同で活動を行い、第7回以降から人材分科会単独で活動してきた。その成果として、秋ぐらいに「コレクティブ・インパクトへの挑戦」（仮題）というタイトルで本を出版することとなった。
  - ・ 資金分科会については、資金に関する部分を中心に議論を行ってきており、今後どのような展開ができるのかについて議論していくことを考えている。
  - ・ 情報分科会については、20ぐらいのNPOを選び、コミュニケーション力やデータの整理、情報発信という三つのカテゴリーに分けて情報化に関するアンケートを実施した。今後も分科会が続くのであれば、情報化指数という観点も用いて、全体的な情報化の調査等を実施していきたいと考えている。また、情報分科会自体も情報発信していかなければいけない。「民都・大阪」フィランソロピー会議も情報発信した方が良いと思うので、色々お手伝いしたいと思っている。
  - ・ 共創分科会については、子ども・若者関係の支援を行っているNPOと繋がり、大阪の子どもの問題について議論し、フィランソロピー大会においても発表した。また、福祉と農業や伝統工芸など、他分野と福祉で新しくイノベーションを起こしていこうということで、複数回、現場を訪問し、ワークショップ等を利用したこともフィランソロピー大会で発表した。共創分科会の最大の特色は、社会事業やプロジェクトベースで、協働、共創を促進していくことに一番の特色がある。この特色は「TEAM EXPO 2025」とコンセプトが全く同じであるので、今後も「TEAM EXPO 2025」の中で、大阪を変える100人会議としても貢献をしながら、共創事例を一緒に生み出していきたい。
  - ・ 文化・芸術分科会については、文化・芸術活動はコロナの影響により死活問題に至るまで深刻な打撃を受けているところであり、この問題を取り上げる必要があるのではないかとということで、12月2日にZOOMによるウェビナーを開催した。その中で、オンラインによって新しい活動分野が広がったことやオンラインを活用したクラウドファンディングのような新しい資金の調達の方策の話題が出た。ポストコロナを考えた時、新しい試みや工夫をする機会でもあったが、そのような知識や情報を、それぞれの団体が単独で考えるのではなく、各種の団体と情報共有・情報交換していく必要がある。現在、国では様々な助成制度があるが、非常にわかりにくく、膨大な資料が要求され、各団体の持つノウハウだけでは対応できない状況にある。そのような問題意識がある中で、国の補助・助成制度に対しても、使いやすい方策を研究したり、国に要望したりしていくような活動が今後必要ではないかという、今後の課題と方向性も明らかになった。